



インタビュー

現役保護司の2人にインバウンド！ 保護司になったきっかけや、活動している中で感じたこと、やりがいなどを教えてもらいました。

■保護司になったきっかけは？

自衛官を退官した直後、先輩保護司から誘われたのがきっかけです。自衛隊にいたころは国家・国民のために働いてきましたが、退官後は生まれ育った地域に恩返しがしたいと考えていた矢先の誘いだったので、二つ返事で引き受けました。



■活動の中での気づきや学びはありますか？

保護観察の対象者と接していると、育ってきた環境や親へのコンプレックスなどから、幸せを幸せと思えない・気がつける人が多いように思います。そんな対象者が面接を重ねていくうちに、身の回りの小さな幸せに気がついてくれるとうれしいですし、それをきっかけに反省して「もう一度やり直したい」と思えたときが、更生への第一歩なのではないかと思います。

■今後の課題や力を入れて取り組んでいきたいことを教えてください。

一保護司としては、昨今、少年だけではなく大人、特に高齢者の保護観察対象者が増えてきていることも踏まえて、いろいろな属性の対象者を担当できるよう、自己研さんに入りたいです。また会長としては、なり手不足の解消に向けて、行政や学校、警察などと連携しながら、積極的な広報・周知に取り組みたいです。



保護司

畠 紀子さん

保護司歴2年 元スクールカウンセラー
ボランティア団体の代表を務める。

■家族からの反対はありませんでしたか？

家族にはとても心配されました。特に娘は「犯罪や非行をした人にお母さんが何かされてしまうことはない？」と不安っていました。ただ、以前は保護司の自宅で実施することが多かった対象者との面接も、最近では「更生保護サポートセンター」や公民館などを利用できることもあって、引き受けることに決めました。

※保護司の活動区域ごとに設置される更生保護活動の拠点

■これまでの活動を教えてください。

昨年、保護司になって以来初めて保護観察の対象者を受け持りました。初めての保護観察ということで少し緊張もありましたが、先輩保護司とペアを組んでの担当だったので、安心感がありました。その先輩保護司の対象者との信頼関係の築き方や、さまざまな角度から質問する様子などを見て、とても勉強になりました。

■保護司に向いているのはどんな人？

「地域に貢献したい」という想いが厚い人でしょうか。自分のためだけではなく、他人の幸せのために行動ができる人、地域のために何かしたいと考えている人、そんな人が保護司ってくれるとうれしいです。

見守り、支える。 保護司の仕事

犯罪や非行のない、安全で安心な地域づくりのために活動する保護司。皆さんは保護司がどんな活動をしているか知っていますか？ 今回は保護司の活動を紹介します。

福祉総務課 ☎ 227-6061



どんな活動をしているの？

保護司は、犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことがないよう、その立ち直りを地域で支える民間のボランティアです。給与は支給されませんが、活動にかかる実費（交通費など）は支給されます。

民間人としての柔軟性と地域の実情に通じているという特性をいかし、保護観察官と協働して以下のような更生保護活動・地域活動に取り組んでいます。

市内では17人（令和7年11月現在）、全国では約4万7,000人の保護司が活動しています。

保護観察



更生保護の中心となる活動で、犯罪や非行をした人に対して、更生を図るために約束ごとを守るよう指導するとともに、生活上の助言や就労支援を行い、その立ち直りを助けます。

生活環境調整



少年院や刑務所に収容されている人が、スムーズに社会復帰を果たせるよう、釈放後の帰住先の調査、引受人との話し合い、就職の確保など、地域で受け入れるために必要な態勢を整えます。

地域活動



犯罪や非行をした人の改善更生について地域社会の理解を求めるとともに、犯罪や非行を未然に防ぐために、地域における犯罪予防活動を促進しています。



こんな取り組みも！



あいさつ運動

“ののいちっ子を育てる”市民会議との共催により、「愛と和 ののいち5万人あいさつ運動」を実施しています。また独自の取り組みとして、週に一度地元の保護司が市内中学校の玄関前に立ち、生徒とあいさつを交わしています。



“社会を明るくする運動”市民のつどい

社会を明るくする運動の強調月間にあわせて、「市民のつどい」を開催しています。令和7年度からは会場をイオンモール白山に移し、更生保護にまつわるクイズ大会やJr.サンシャインバンドの演奏などで大いに盛り上がり、買い物中の人们にも多く足を運んでもらいました。



除草・海岸清掃ボランティア

海岸清掃や軽費老人ホーム「百々鶴荘」での除草ボランティアを実施しています。保護観察中の人たちが地域社会に貢献する活動を行うことを通じて立ち直ることを目的とした「社会参加（貢献）活動」の一環として、保護観察中の人と一緒に活動することもあります。